

西区歴史さんぽみち

旧東海道

昔、現在の横浜駅の一帯から、久保町方面にかけては、袖ヶ浦とよばれた内湾であった。旧東海道は、神奈川宿から海に沿って（現在の楠町から浅間町）保土ヶ谷宿へ通じていた。あたりは静かな入り江で白帆が浮かぶなど、大変景色のよい所として有名であった。

江戸時代、街道沿いの宿と宿の間には、人足と呼ばれた労働者や馬の休憩場所として立場（たてば）があった。神奈川宿と保土ヶ谷宿の間の芝生村（しばうむら・現浅間町）は、この立場として発展した村で、農業のほか茶屋・飯屋など商業や舟運も営まれていた。

横浜道

安政5年（1858）6月の日米修好通商条約調印によって開国に踏み切った幕府は、神奈川（横浜）の開港を翌年6月と定めた。

しかし、ミナト横浜の街づくりは開港3ヶ月前の3月になって、やっと工事が始まるという状況であった。東海道筋と結ぶ道として芝生村（しばうむら・現浅間町交差点付近）から横浜（関内）にいたる「横浜道」を開いた。（当時、東海道と連絡するには、保土ヶ谷から井土ヶ谷、蒔田を通るか、神奈川からの舟運しかなかった。）

この道は、芝生村から湿地帯だった岡野・平沼の各新田を経て戸部村まで一直線に通じる道路を築くとともに、新田間（あらたま）、平沼、石崎の三つの橋を架け、併せて戸部坂、野毛の切り通しを開き、野毛橋（現都橋）、太田橋（現吉田橋）を架けたものだ。

記録によると、当時の橋の幅は3間（約6m弱）で道路もおそらくこれと同等の幅員であったと考えられる。工期3ヶ月（実際は1ヶ月）の突貫工事で、石崎・吉田橋脇に関門を設け、通行人を取締った。また、この道を通して西洋文物が全国各地に伝えられていった。

保土ヶ谷道

戸部村と保土ヶ谷宿との往来に使われたのが保土ヶ谷道である。

この道は、保土ヶ谷宿の岩間町大門から久保町杉山神社前へ、商店街を通り願成寺門前に出てくらやみ坂を通り、戸部一丁目交差点で横浜道に合流した。くらやみ坂には関門が置かれていた。

20 日本丸メモリアルパーク

■帆船日本丸
昭和5年（1930）建造された船員養成を目的とした船。昭和59年（1984）横浜市に誘致され、一般公開されている。係留されている場所は旧三菱ドッグ1号ヤード。隣接するランドマーク下の石囲いのイベント会場は2号ドッグでここで氷川丸が建造された。



■横浜みなと博物館（旧マリタイムミュージアム）
平成21年（2009）横浜港150年の歴史、帆船に関するものを展示し、見て楽しむ博物館に改装された。

21 二代目横浜駅遺構

第二代横浜駅舎は、現在の桜木町駅付近に位置していた初代横浜駅から、大正4年（1915）に新築移転した。大正12年（1923）の関東大震災のため崩壊し8年間という短い期間であったが、大正期の煉瓦構造物として貴重な遺構となっている。



旧東海道

1 勸行寺 南軽井沢9

文禄4年（1595）日養が開山。境内左手に近藤内蔵助長裕の墓（供養塔）がある。彼は天然理心流という剣法の開祖。新撰組の隊長として名を残した近藤勇はその4代目にあたる。また、横浜生まれの作家・北林透馬と劇作家の余志子夫人が眠る。境内にあるイチョウは、名木古木に指定されている。



2 軽井沢の庚申塔・軽井沢古墳碑 南軽井沢61

建立は、安永8年己亥（1779）2月吉日。塔の後ろに建つ碑には「この塔は道路拡張にも拘わらず西区唯一の建立当時の現地にあり保存のため建之昭和46年（後略）」とある。この塔は主要地方道横浜生田線が三ツ沢へ上る右側の崖の中腹、KANTOモータースクールへ通じる階段の途中に建つ。元は旧東海道脇にあったものと思われる。その丘上に前方後円墳遺跡の碑が建立されている。



3 浅間神社 浅間町1-19-10

承暦4年（1080）富士浅間神社の分霊を祭ったものと伝えられている。祭神は、木花咲耶姫命（コノハナサクヤヒメノミコト）で旧芝生村（しばうむら）鎮守。本殿2階建浅間造。社殿のある丘は、「袖摺山（そですりやま）」と呼ばれ、昔は山の下がすぐに波打ち際であったという。

この丘の斜面には20基の横穴墓があり、そのうち開口したものが「富士の人穴」と呼ばれ、この中に安置されていた大日如来石像が現在社殿横に置かれている。横穴墓は調査のあと埋められた。



4 追分 浅間町4-350

保土ヶ谷区境の三叉路は、東海道でも芝生（しばう）の追分（おいわけ）といわれた。八王子道の起点で甲州街道の八王子宿まで延びていたため、東海道と甲州街道を結ぶ要路として賑わいを見せていた。開港後も絹などの輸送路として栄え、追分から物資は海路、陸路の方法で運ばれた。

5 木村担乎先生終焉の地碑 浅間車庫前公園

木村担乎は、帷子（かたびら）小学校長退職後、私費を投じ、鄰徳（りんとく）小学校を建設した人。嘉永6年（1853）仙台藩士の子として生まれ、明治11年（1878）神奈川県教師になり、後に保土ヶ谷小学校から帷子小学校の校長となった。大正3年（1914）退職して、学校に通えない子供たちのため浅間町に私立の鄰徳小学校を建てた。大正12年（1923）の関東大震災のため70歳で生涯を閉じた。木村先生の徳をしのぶ有志が碑をたてた。



6 洪福寺 浅間町5-385-3

寺伝では、開山は呑海（どんかい）といわれている。寛永13年（1636）袖摺山（そですりやま）薬師堂を当地に移したという。本尊薬師如来は、鎌倉権五郎景政の守り本尊と伝えられ、目洗薬師といわれている。



横浜道

7 平沼水天宮（水天宮・平沼神社）平沼2-8-20

天保10年（1839）5代目平沼九兵衛が、平沼新田の守護神として水天宮を祭ったことが始まる。境内社には、平沼稲荷社、竈三柱（かまどみはしら）神社、平沼天満宮。毎年、湯立神事が行われ、この湯を飲むと風邪をひかないといわれている。

元平沼橋

開港当時、横浜から東海道へ抜ける主要道として、「横浜道」が新設された。元平沼橋は、この時石崎橋、新田間橋（あらたまばし）とともに造られた由緒ある橋。長さ30間（約54m）で、平沼橋といった。昭和3年（1928）に国鉄（現・JR）・私鉄をまたいで新しく造られた橋にその名を譲り、現在は元平沼橋と呼ばれている。



8 伝御所五郎丸墓 御所山町25

御所山町に御所五郎丸（ごしょごろうまる）の墓と伝えられる五輪塔がある。五輪塔とは、鎌倉時代から室町時代にかけて多く作られた武士や僧侶などの墓や供養塔である。近くで発掘されたものを町内会の人々がこの地に祭り大切に管理し、現在に至っている。

大理石板には五郎丸にまつわる話が刻まれている。概略は、「建久4年（1193）5月28日、源頼朝が富士の巻狩をした夜、曾我兄弟が父の仇（かたき）の工藤祐経を討ち取った。その時、五郎丸が曾我兄弟を祐経の館に導き本望を遂げさせた」という。「御所山」という地名等からこの話と合体させているが史実ではない。



9 井伊掃部頭の銅像 紅葉ヶ丘57

井伊直弼（1815～1860）は幕末の大老。彦根藩主。掃部頭。安政5年（1858）大老に就任後、日米修好通商条約を締結。横浜開港の総責任者となった。後に安政の大獄を強行したため万延元年（1860）3月3日、江戸城桜田門外で暗殺された。和歌、能楽、居合に通じ、とりわけ茶道では、「茶湯一会集」などの名著を残している。掃部山公園に井伊掃部頭の銅像が建立されたのは明治42年（1909）旧彦根藩主らが藩主井伊直弼の開港の功績を顕彰するためであった。

この銅像は昭和18年（1943）に戦争中の金属回収命令で撤去され、現在ある銅像は昭和29年（1954）開港100周年を記念して、県・市・商工会議所や市民の手で再建されたもの。なお、公園内に横浜能楽堂が建設され、井伊直弼が愛好した能楽が毎年「かもんやま薪能」として演じられている。



掃部山

掃部山（かもんやま）は、江戸時代には「不動山」と呼ばれ、明治に入ってからしばらくは「鉄道山」と呼ばれていた。鉄道建設のとき、この地が事業の拠点になっていたことに由来する。山手の外国人墓地に眠るE.モレルをはじめ、鉄道建設のために来日した外国人技師の官舎がここにあった。鉄道開通後も、ここの湧き水が鉄道用水として利用され、紅葉橋から花咲町一帯は鉄道用地となっていた。鉄道山が掃部山に変わったのは明治17年（1884）、旧彦根藩士の有志が、元藩主の井伊直弼（いいなすけ）の記念碑建設のため購入し、この山を公園にした後、大正3年（1914）井伊家から市に寄付された。


西区

歴史さんぽみち




10 神奈川奉行所跡 県立青少年センター横

県立図書館・音楽堂・青少年センターなどがある県文化センター一帯は、横浜開港と共に置かれた奉行所の跡。安政6年(1859)6月4日に開設され、前年7月以来開港準備を担当してきた水野筑後守(ちくごのかみ)ら5人の外国奉行全員が当初の神奈川奉行を兼任し、輪番で横浜黎明期(れいめいき)の行政事務を処理していた。奉行所は、ここ戸部役所と横浜運上所(現・中区)に分かれ、前者は内政、治安、裁判などの内政事務を、後者は交易・外交事務を行っていた。




11 伊勢山皇大神宮 宮崎町64

もと戸部村東部の伊勢山(現在の掃部山公園東北端辺り)にあった大神宮を明治3年(1870)、神奈川県権知事井関盛良(いせきもりとめ)の告諭により、野毛山に移して伊勢山皇大神宮となえ、横浜の総鎮守と定めた。これにより所在地は伊勢山と呼ばれた。




12 成田山横浜別院延命院 宮崎町30

本尊は不動明王。明治3年(1870)千葉県成田山新勝寺(しんしょうじ)より分霊を勧請(かんじょう)して、太田村(現・南区西中町)普門院境内に遷拜所(ようはいじよ)を設立。同9年高島嘉右衛門から敷地の寄進を受け現在地に移り、成田山教会と改めた。その後、明治26年(1893)寺号を延命院と号した。通称野毛不動尊とも呼ばれている。



13 野毛山入口擁壁 老松町27 (旧平沼専蔵邸の石積擁壁)


野毛坂交差点の角にある。明治時代に横浜在住の豪商平沼専蔵邸の石積擁壁。亀甲積の施行精度は、市内随一。市認定歴史的建造物に指定されている。



ブラフ積擁壁

外国人居留地としての山手地区には、慶応3年(1867)の開放以来、道路の開削や宅地の造成に伴って各地に大小の崖地が生じ、木柵による土留めから順次石積みの擁壁へと整備されていった。その多くは今なお現存している。房州石を用い、長さ70~80cm、20cm角程度の石材を1本毎に控えをとる積み方で、レンガ積みで言えば1段に長手面と小口面とを交互にみせるフランス積に似た積み方をとっており、従来の間知石積を主流とする伝統的な石積とは異なる。

居留していた外国人が、横浜の山手を「ブラフ(bluff)」と呼んでいたため、山手地区に多いこの積み方を「ブラフ積」と呼ぶようになった。区内にも多数現存している。




14 野毛山公園 老松町63-10

動物園を含む公園はかつて生糸貿易で財を築いた豪商原善三郎、茂木惣兵衛の屋敷跡地。野毛山公園には春は桜、秋は紅葉と多くの花見客が訪れる。また動物園は子ども達の憩いの場で無料で開放されている。

15 佐久間象山顕彰碑

幕末の兵学・洋学者。信濃(現在の長野県)の松代藩士。黒船事件以前から開国を唱えていた開国論者で、幕府の下田開港のうわさを聞き、これを批判、横浜開港に奔走した。新しい日本の建設に力を尽くしたが、明治維新を見ることなく元治元年(1864)京都で暗殺された。昭和29年(1954)開国100周年記念として、野毛山公園の一角に顕彰碑がたてられた。



水道道(すいどうみち)

明治20年(1887)、イギリス人技師H.S.パーマーの設計により、ろ過した水に圧力をかけ、鉄管を通して送水する方式の近代水道が、わが国で初めて横浜に造られた。水道道(すいどうみち)は県央の道志川から水道管を埋設した道のことで、当時は人の通行だけが許されていた。現在も西谷浄水場から野毛山配水地へ送られる水はこの道の下を通っている。埋設管の口径は1200mmで、流速は約1.5m/秒(時速5.4km)。藤棚から野毛山配水地へ向かい、坂を上って流れていることになる。これは西谷浄水場の方が標高が20mほど高いためである。

久保山墓地


久保町墓地は、明治7年(1874)、横浜に設置(火葬場は翌年)された初めての公営墓地である。東京の青山墓地より設置が2ヶ月早く、わが国の由緒ある墓地のひとつ。山手の外国人墓地が横浜にかわりのある外国人が眠っているのに対して、久保山墓地は横浜の歴史をつくり、発展に貢献した多くの日本人が眠っている。戊辰(ぼしん)戦争で戦死した人々の眠る官修墓地や関東大震災の合祀(ごうし)霊場もある。戦後、極東軍事裁判の戦犯がここで秘密のうちに火葬されたという。

久保山墓地に眠る人々
『赤毛のアン』の訳者村岡花子、宰相吉田茂の長男で英文学者の吉田健一、真葛焼の宮川香山、吉田新田の吉田勘兵衛、三溪園の原富太郎、横浜商業高等学校(Y校)初代校長の美澤進、山城屋事件の山城屋和助、大関若羽黒、映画「寅さん」の初代オイチャンの森川信、社会福祉の二宮ワカ、行刑の有馬四郎助、川柳の今井卯木など。

16 甘酒地蔵尊(首なし地蔵) 久保町35-1

民家の敷地内に「甘酒地蔵」と呼ばれている5体の石仏が並んでいる。昔、久保町には虫歯、お産、無尽の時などに祈れば必ずご利益がある地蔵があり、願望成就のお礼に甘酒を供えたという。これが甘酒地蔵となったが、現在ある地蔵が当時のものかどうかという確証はない。

また、このうちの1体は「首なし地蔵」という説もある。古老の話によると、地蔵は首が折れていて、折れば賭け事にご利益があったという。



※地蔵は、個人宅の横に安置されているので、お参りや見学は静かにお願いします。

17 藤棚(横枕) 藤棚町1-51

藤棚周辺は、東海道保土ヶ谷宿から開港場横浜へ向かう保土ヶ谷道が通り、交通の要衝であった。明治の初めころから、鈴木屋(現在の横浜銀行藤棚支店通り)という茶店があり、軒一面に藤が繁茂していたという。この藤棚が地名の由来。藤棚の名は市電の停留所に採用され、昭和3年には横枕を改めて町名となった。この藤棚は、戦災で焼失してしまったが、昭和52年(1977)4月に地元の手で復元された。

18 願成寺 西戸部町3-290

願成寺(がんじょうじ)は、戦国時代末、天文期(1532~54)に建立されたとされる古い寺。明治時代に今の場所に移されるまでは、くらやみ坂の下にあった。

境内墓地には、スポーツ市長といわれた平沼亮三(15・16代横浜市長)、幕末の鎌倉事件(鎌倉で英国士官2人が殺害された)で処刑された清水清治と間宮一、港崎町(みよざきちょう)の遊郭でフランス水兵を殺害した亀吉(小亀)の墓がある。



※なお、願成寺山門下の庭には、願成寺に古くからあったもの、藤棚交差点あたりにあった北向地蔵や、岩亀横町にあったものと言われている3体のお地蔵さんが祭られ9の日を縁日としている。

19 杉山神社 中央1-13-1

西区役所の北側にある境内は約3600㎡ほど。イチョウ、ケヤキなどの大木に囲まれた小さなオアシス。社伝によると創建は白鳳3年(652)、出雲大社の神、大己貴命(オオナムチノカミ)の分霊を祭ってある。大己貴命とは、因幡の白うさぎなどの神話で有名な大国主命(オオクニヌシノミコト)のこと。

境内には天神社、稻荷社、山王社、社宮祠社(くらやみ坂にあった「おしゃもじさま」)、殿島社、浅間社、三峯社、聖徳太子殿がある。

現在の社殿は、昭和31年(1956)8月再築の鉄筋コンクリート造りで、同年の神奈川県建築コンクール第一部に入賞している。

